勝山の夢を織る
中心市街地のシンボル

「懐かしい」との声

ゆめおーれ勝山のオープンには、繊維産業に関わったことがあるかたが市内外から訪れ、「懐かしい。」、「家にもこの機械あったわ。」などと、懐かしむ声が多く聞かれました。

岨ひさおさん（77歳＝郡町2丁目＝）は、「14歳で市内の機業場に就職し、70歳まで機屋関係の仕事をしてきました。（ゆめおーれ勝山の2階にある、差入（さしいれ）という作業工程の展示の前で）差入を内職でやっていたのを思い出します。写真で、特に織子（おりこ）さんの着物を見ると当時を思い出します。」と、展示されている写真をとても懐かしそうに見ていました。

山口智也くん（9歳＝北郷町上野＝）は、お母さんと弟と来館し、手織り体験コーナーで、初めての織物に挑戦しました。手と足と、横糸のシャトルを駆使して、「ちょっと難しかったけど、おもしろかったです。以前、自宅が機業場をやっていたので少し機織りに興味がありました。今度はコースターを作りにまた来たいです。」と、笑顔で話し、手織り体験にさらに興味を持ったようでした。

ゆめおーれ広場ではイベント

18日から20日までの3日間、ゆめおーれ勝山のオープンに合わせて、勝山観光協会主催による「勝山ワンコイン元気フェア」が企画され、ゆめおーれ広場には多くのテントが立ち並び、市民や観光客で賑わいました。手打ちそばや地場野菜、アマゴの塩焼きなど、勝山の特産品が100円または500円のワンコインで販売され、人気を集めていました。

さらに、26日まではオープニング期間として、図書館横に作られたステージで、太鼓や吹奏楽、ライブ、盆踊りなどが行われ、多くのかたが足を止めて見入っていました。

まちなかの起点として

勝山には、世界でも屈指の県立恐竜博物館や、世界遺産登録を目指す国史跡白山平泉寺、越前大仏や勝山城博物館など、県内有数の観光資源に恵まれています。

ゆめおーれ勝山は、これらの豊かな観光資源を結びつける観光情報発信基地として、また、訪れた観光客と市民との交流の場として、さらに、市民同士の憩いの場として利用されることが期待されています。

そして、市民の皆様のアイデアで、この施設を十分に活用していただきたいと思います。

※8月14日（金）～16日（日）は、ゆめおーれ勝山2階のミュージアムゾーンが無料開放されます。まだ、ご覧になったことのないかたは、ぜひ足を運んでみてください。

①糸繰機の前では、懐かしむ声が多く聞かれました
②２階のミュージアムゾーンでは、勝山の繊維産業の歴史をパネルなどを使って紹介しています
③職員が展示品や工程について説明を行います
④糸のもととなる蚕繭
⑤歯車のひとつにも歴史を感じます
⑥来館記念のスタンプ
⑦手織り体験コーナーは、子どもたちにも大人気です
⑧半木製の織機を実際に動かしています
⑨縦糸を整える整経機を見つめる来館者
⑩パネルで分かりやすく繊維の歴史を紹介しています
⑪糸繰機が動いているところは必見です

懐かしのポスター展が開かれた本町通りにある中吉座

初めて一般公開された深谷さん宅の屋敷と庭

「まちなかミニ博物館」も人気

元禄線沿いにある深谷桂一さん宅には、かつて勝山小笠原藩の御典医を務めた秦（はた）氏の屋敷と庭が残っており、今回、「まちなかミニ博物館」として初めて一般に公開しました。また、本町通り商店街にある「中吉座」では、映画ポスター展と蒔絵（まきえ）の展示が行われました。まちなかに人を呼び込む取り組みとして企画され、多くのかたが足を運んでいました。